

磐梯火山 1888 年噴火災害の文化地質学的遺物 —長坂の霊璽—

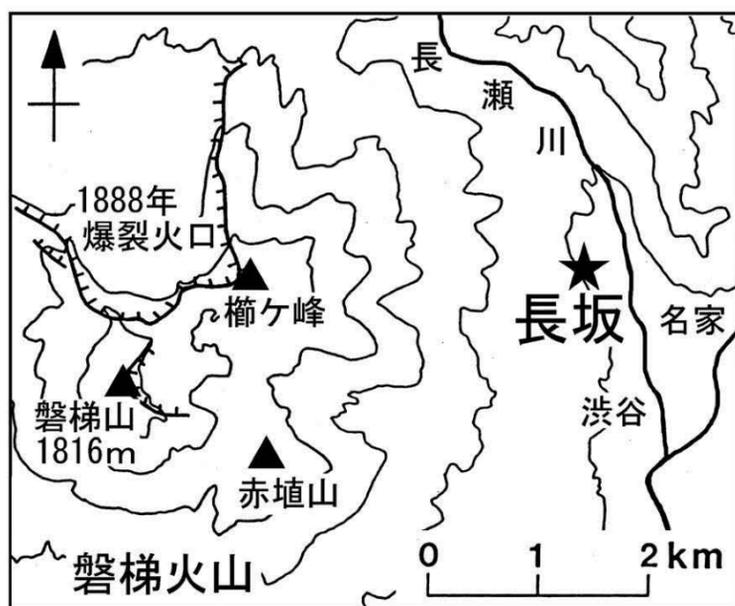
千葉茂樹*

Culture geological relic at 1888 eruption of Bandai volcano - Memorial tablet of the victims at Nagasaka -

CHIBA Shigeki*

はじめに

磐梯火山東麓の長坂に存在する^{れいじ}霊璽を紹介する。本霊璽は、磐梯火山1888年噴火災害の犠牲者のものである。また、既知の記録（磐梯山噴火百周年事業協議会1988；磐梯山噴火百周年事業実行委員会百年史部会1988；北原1998；米地2006など）に記載はない。本霊璽は、磐梯火山1888年噴火災害に関する文化地質学的遺物で、記録を後世に残す必要があり報告する。



第1図 霊璽の所在場所

本霊璽の認知の経緯

2013年10月14日、著者は磐梯火山の調査で長坂に行った（第1図）。その際、渡部房市氏^{わたなべふさいち}から、1888年磐梯火山噴火関連の遺構と遺物の情報をいただいた（千葉2025）。本霊璽もその一つで、彼の許可のもと写真撮影を行った。渡部氏による説明の概要は「本霊璽は、1888年磐梯火山噴火災害で家族全員が死亡した渡部熊平一家^{わたなべくまへい}のものである。自分は熊平家の親戚で保管している。熊平家は神道のため、霊璽の形状は六角柱状である。」であった。

北原（1998）は、「1888年磐梯火山噴火災害で渡部熊平一家5名が全滅し、渡部房平家（現在の房市家の当時の当主）の子の一人『房吾』が熊平家の相続人となった。」と記載している。本霊璽を渡部房市氏が保管している理由は、この経緯からと考えられる。なお、神道の霊璽は、仏教の位牌に相当する（篠村2018）。

霊璽の記載

本霊璽は、水晶の結晶（六方晶系）状で、底面の直径は約12cm、高さは約22cmである（第2図）。材質は木製であるが、樹種は不明である。霊璽の側面は6面で、墨筆で文字が書かれている。しかし、肉眼（可視光線）では判読しにくい（第2図A）。このため、近赤外線撮影を行った（第2図B～F）。このうち5面の死亡日は「明治廿一年旧六月七日」である。その記載は、B「明治廿一年旧六月七日帰天 真寿雄神安鎮座 故渡部熊平 享年四十有一歳」、C「右同日帰天 真盛姫神安鎮座 故遠藤氏熊平妻はん 享年三十五歳」（霊：≡霊、女神）、D「右同日帰天 新魂童子霊安鎮座 故新平 享年十四歳 熊平二男」、E「右同日帰天 流衣童女霊安鎮座 故るみ 享年十一歳 熊平長女」、F「右同日帰天 故さき 佐伎童女霊安鎮座 享年六歳 熊平末女」である。残りの1面は、熊平氏の長男のもので「明治七年九月四日帰天 勝彦神霊安鎮座 熊多 享年二歳 熊平長男」とある。上記の霊璽の「○○○安鎮座」は諡号（^{おくりな}霊号）で、仏教の戒名・法名に当たる（山本2013）。長男以外の死亡日「明治21年旧6月7日（太陰暦）」は、太陽暦では明治21年7月15日になる。これは、磐梯火山噴火の1888年（明治21年）7月15日当日である。したがって、本霊璽は、渡部熊平一家が1888年磐梯火山噴火で被災し死亡したこと示している。

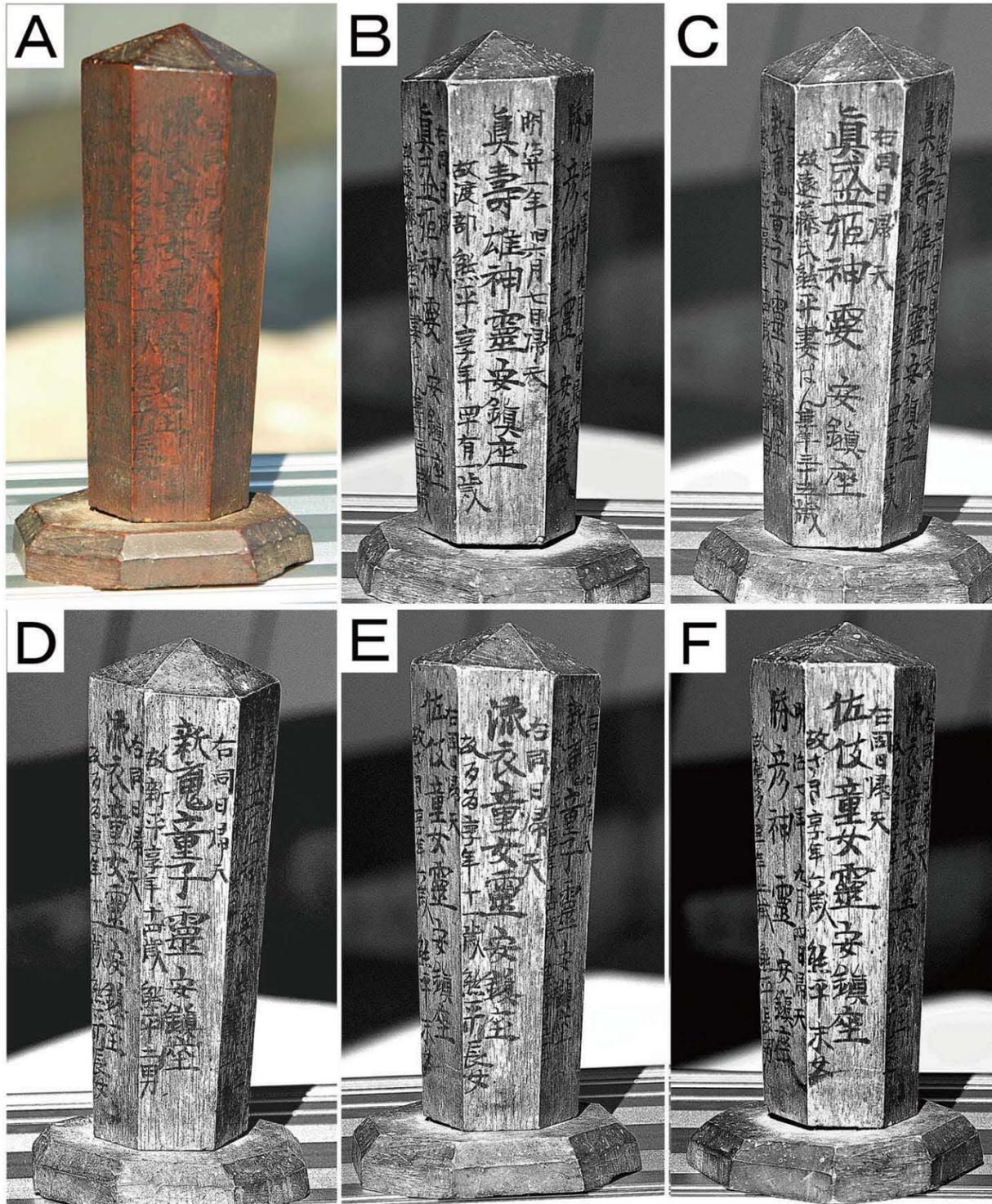
以上から、本霊璽は1888年磐梯火山噴火災害の犠牲者を記録した文化地質学的遺物と考えられる。

2025年1月9日受付 2025年5月1日受理 担当エディター：ト部厚志

* 福島支部、福島自然環境研究室。〒969-3141 福島県耶麻郡猪苗代町大字磐里字村東4-3。

Fukushima Branch, Fukushima Natural Environment Laboratory, 4-3 Murahigashi, Iwasato, Inawashiro-machi, Yama-gun, Fukushima Prefecture.

E-mail:s.chiba@vesta.ocn.ne.jp



A : 可視光線撮影, B~F : 近赤外線撮影 2013. 10. 14
SIGMA SD15 50mm F2.8 B~F : IR CUT FILTERをFUJI FILTER SC62Iに換装

第2図 霊璽の写真

最後に

磐梯火山では、1888年噴火の遺構・遺物で、忘却され放置されたもの（千葉2023）や未認知のもの（千葉2025）がある。更に、記録文書（原本）なども、所有者の高齢化に伴い所在不明のものもある。これらは、文化地質学的に重要であり、著者は今後もこれらを発見次第、記録・報告するつもりである。

本報告書作成に当たり、渡部房市氏には資料の提供をいただいた。また、現地調査の際に竹本弘幸氏にご協力いただいた。更に、査読の匿名氏には貴重なご意見をいただいた。この他多くの方にご協力いただいた。皆様に御礼申し上げます。

文献

- 磐梯山噴火百周年事業実行委員会百年史部会（1988）記録写真集 磐梯山破裂セリ。歴史春秋社, 311p.
- 磐梯山噴火百周年事業協議会（1988）磐梯山噴火百周年記念誌。ぎょうせい, 182 + 56p.
- 千葉茂樹（2023）1888年磐梯山噴火災害からの復興の遺構—磐梯山北麓に存在した石碑「明治神宮」—. 地球科学, 77: 45-52.
- 千葉茂樹（2025）磐梯火山1888年噴火の遺構—三ツ屋の墓石群—. 地球科学, 79: 181-184.
- 北原糸子（1998）磐梯山噴火 災異から災害の科学へ。吉川弘文館, 270 + 14p.
- 篠村正雄（2018）弘前藩領における儒葬・神葬祭について—一人を神として祀るあり方—. 弘前大学國史研究, 144: 19-36.
- 山本勝真（2013）伊勢皇大神宮参詣。日本海海難防止協会会報, 110: 9-11.
- 米地文夫（2006）磐梯山爆発。古今書院, 201p.